

## ベトナム HIV/AIDS に関するプロジェクトの紹介

永井萌子 2019 年度採用（8 期生）

修学機関：東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻 博士後期課程修了

研究課題：ベトナムにおける HIV 陽性者を対象とした非感染性疾患予防に関するヘルスリテラシー発揮尺度の開発（Enabling health literacy for non-communicable disease prevention among people living with HIV in Vietnam: scale development and validation）

略歴（ながいもえこ）

千葉大学看護学部卒業後、看護師として病棟や保育園で勤務。2011 年 NPO 法人難民を助ける会にて宮城県石巻市において東日本大震災緊急支援に従事。その後、同法人ザンビア駐在員として HIV/AIDS 対策事業に携わる。ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で公衆衛生修士を取得後、2017 年外務省平和構築人材育成支援事業の研修員として WHO ラオスにて HIV/結核プログラム支援に従事。現在国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターにてベトナムにおける HIV/AIDS 共同研究プロジェクトに従事する。

---

2019 年から国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター（ACC）で勤務しています。ACC は 2007 年からベトナム国立熱帯病病院と HIV/AIDS に関する共同研究を実施しています。この ACC の研究フィールドに参加させて頂き、仕事と大学院とで、ベトナム HIV/AIDS に関する研究プロジェクトに携わらせて頂きました。今回は、その 2 つの研究プロジェクトについてご紹介致します。

### 博士課程の研究プロジェクト

ベトナム HIV 陽性者とヘルスリテラシーというテーマで博士研究を実施しました。HIV 陽性者数が約 23 万人のベトナムでは、近年急速に経済発展と都市化が進み、糖尿病などの非感染性疾患が増加しています。HIV 陽性者はそうでない者と比べ糖尿病や心血管疾患に罹患するリスクが高いといわれており、HIV 陽性者の非感染性疾患予防は大変重要です。健康の維持や疾病の予防に不可欠な力としてヘルスリテラシーがあります。ヘルスリテラシーは健康情報を入手し、理解し、評価し、そして実際に活用して健康に関する意思決定をするスキルのことです。疾患の予防のためには健康教育などを通じて HIV 陽性者のヘルスリテラシーを向上させることが重要ですが、HIV 陽性者を対象とした非感染性疾患予防に関するヘルスリテラシー測定尺度は存在しませんでした。そこで、博士研究では新たなヘルスリテラシー測定尺度を開発しました。

まず、ベトナム HIV 陽性者が非感染性疾患を予防するためにどんなヘルスリテラシーが必要とされるのかを探るために、23 名の HIV 陽性者の方を対象に、インデプスイインタビューを実施しました。調査を通じて強く感じたことは、HIV 陽性者の方は未だスティグマや差別に苦しめられているということでした。インタビューでは、非感染性疾患や生活習慣に関する質問しかしないため、対象者が感情的になることはないと思っていたのですが、何人かの方が涙ながらに辛いお気持ちを話されていました。改めて、スティグマや差別がベトナム社会に根強く残っていることを実感しました。また、調査結果から、スティグマを強く感じている HIV 陽性者の方は、たとえ健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するヘルスリテラシーを持っていたとしても、その力を非感染性疾患の予防に上手く活用できていないことが示唆されました。スティグマを強く感じている方は、「自分の健康」を「HIV 感染症」と強く関連づけてしまいがちであり、自分の健康を HIV 感染症以外の視点で考えづらい傾向にありました。一方で、家族や友人からのサポート（ソーシャルサポート）を多く持つ方は、たとえスティグマを強く感じていたとしても、ヘルスリテラシーを HIV 感染症以外の健康問題である非感染性疾患の予防に活用することができていました。ヘルスリテラシーが高くてもスティグマが強い場合は、非感染性疾患予防のためにヘルスリテラシーを発揮することが難しく、また、スティグマが高くてもソーシャルサポートが高ければヘルスリテラシーを発揮することができる、ということが示唆されました。この結果をもとに、ヘルスリテラシーだけではなく、阻害要因であるスティグマと、促進要因であるソーシャルサポートを同時に測定し、スキルとそれを発揮する環境の両方を評価することが重要であると考え、3つの尺度を開発しました。将来、HIV 陽性者の方の健康教育プログラムに、この研究結果が活かされればと思います。

### **SATREPS プロジェクト**

ACC は、2019 年から地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）のもと「ベトナムにおける治療成功維持のための”bench-to-bedside system”構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト」を実施しています。私は 2022 年から JICA 専門家としてハノイでこのプロジェクトに従事させて頂いています。中所得国となり海外からの援助が減少しているベトナムでは、自国の医療保険制度で HIV 診療を提供する方針となりました。そこで同プロジェクトでは、定期的に HIV ウイルス量や薬剤耐性をモニタリングし、保健システムの変化が抗 HIV 療法の継続や治療成績へどのように影響するか評価しています。この SATREPS プロジェクトでは、研究だけではなく技術協力も重要な活動の 1 つです。北ベトナムにある 10 の地方病院の医療従事者の方を対象に、包括的なアドヒアランスサポートの提供と薬剤耐性検査の患者管理への適用を目標としたトレーニングワークショップをこれまでに 5 回実施しました。講義だけでなく、グループワークやパネルディスカッションなどさまざまな方法を用い、参加者からの希

望に沿ったトピックも取り入れて実施しました。回を追うごとに、参加者の議論が活発になっていったことは成果の1つであると思います。また、プロジェクトでは、トレーニングワークショップに加えて、HIV/AIDSに関わる医療従事者の方が現場で参照できる資料として、薬剤耐性 HIV ウイルス対応マニュアル（Knowledge book）の作成を進めています。Knowledge book が、今後ベトナム HIV/AIDS 診療に関わる医療従事者の皆さんの更なるキャパシティビルディングに貢献できることを期待しています。

ACC の SATREPS プロジェクトの活動についてはこちら

<https://vietresearch.acc.go.jp/activities/satreps/>

最後に、ACC での勤務と並行した博士課程での研究をご支援頂いた FASID 奨学金プログラムに心より感謝申し上げます。



パネルディスカッションでは、プロジェクト参加地方病院の出席者がパネラーとなって症例を紹介しました。



グループワークの様子。具体的なベトナム・日本の症例を踏まえたケースについて議論しました。



参加者の皆さんと。